

板書計画等を含め、3ページで作成して下さい。

学級活動(2),(3)

※ は、留意事項です。

第○学年 学級活動() 指導案

R2 年度_那覇市様式

【学級活動(2),(3)】

学級での話し合いを生かして自己の課題の解決及び将来の生き方を描くために意思決定して実践したりする一連の活動を示している。

年間指導計画 () 学年 ○月議題 学級活動(2) 日常生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全
又は学級活動(3) 一人一人のキャリア形成と自己実現

1 題材 「

学級活動の内容() ※例：学級活動の内容(3)イ

2 題材について

(1) 児童の実態

題材に関わる普段の現状を記述する。その際、アンケートを活用した意識調査や学校生活の観察から様子を具体的に捉える。

児童生徒が自己の課題として真剣にとらえ、目標や方法などを意思決定できるように、学級生活における児童の実態から、この題材を取り上げる必要性など、教師の題材観、指導観についてまとめる。

(2) 題材設定の理由

必要に応じて、各教科、道徳科及び総合的な学習の時間との関連を図った計画的措置や学年段階、発達の段階に即した系統的な指導にかかわる配慮事項などについても記述する。

【題材】

教師が下記の活動で取り上げたいことをあらかじめ年間指導計画に即して設定したものを「題材」と称する。

- ・学級活動(2)・・・現在の生活上の課題
- ・学級活動(3)・・・現在及び将来を見通した生活や学習に関する課題

3 第○学年及び第○学年の学級活動(2)の評価規準

知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	主体的に学習に取り組む態度
		評価の観点については各学校で設定する。

4 事前の指導

	日時	児童(生徒)の活動	指導上の留意点	目指す児童生徒の姿と評価方法
事前の活動	○月○日() (昼休み)	(例) ・題材を知る ・アンケート調査し、結果をまとめる。 ・自分の考えについて考えておく。	「問題の提示」から「事後指導」までの活動内容について記述。	本時の活動の中で、どのようにめざす児童生徒像が位置付けられているかがわかるように書く。
	○月○日() (第○校時)		児童生徒が活動を行う上で、資料や活動の場づくり、グループでの話し合い、チームティーチング、ゲストティーチャー、簡単な実験、体験談を聞くなどの工夫をする点を記述する。	【思考力・判断力・表現力】

板書計画等を含め、3ページで作成して下さい。

5 本時の展開

(1) 本時のねらい

自他とのかかわりの中で、個人の課題を踏まえ、どんな意思決定ができるようにしたいのか指導のねらいを端的に記述する。

(2) 授業仮説

(授業仮説の表現例)

「○○○において、○○○すれば、○○○になるであろう。」

場・内容の限定 投入方法 期待される効果
方法・手立て ねらい・めざす子ども

本時の授業のどこで、どのような指導の在り方や方法を提案しようとしているのか、学習指導要領を踏まえて簡潔にまとめる。

教材研究や授業展開に沿ってマイノートを活用し、検討しましょう。

(3) 展開

段階	話合いの順序	指導上の留意点 ○教師の手立て □児童生徒の反応	目指す児童生徒の姿と 評価方法
導入 (分)	【つかむ】 1 題材について確認 2 話合いのめあての確認 3 教師の話	課題の現状、事実などを明らかにするグラフ、アンケート調査、実態調査の結果、映像などの資料があれば記述する。	「十分満足できる活動の状況」を的確に見取るため、具体的な児童生徒の姿をいくつか想定して記述する。
展開 (分)	4 話合い 【さぐる】 ※話し合うことを記述する。 【見つける】	・ 共通に解決すべき問題としての意識の共有 ・ 自分の問題や状況から目標や方法を決定 児童（生徒）の予想される考えなどを記入する。	【思考力・判断力・表現力】
終末 (分)	【決める】 5 意思決定 6 話合いの振り返り 7 先生の話	【意思決定】 話合いを通して自分の考えを広げたり、課題について多面的・多角的に考えたりして自分に合った解決方法を自分で決めること。 学級活動（2）（3）においては、重要な場面であり丁寧に扱うことが求められる。決定にあたっては、導入、展開の中で広げたり深めたりした内容が、生かされるように配慮する。 児童（生徒）の決定内容は、自己評価できることを前提に、具体的な取り組み方法、期間などを記入する。 話合い活動を通して、友達の考えと自分の考えを比較しながら、自身の考えを明確にしていく姿を記述する。	

6 事後の指導

日時	児童の活動	指導上の留意点	目指す児童（生徒）の姿と 評価方法
○月○日（ ）			
○月○日（ ）		実践化に向けて意欲化を図るための活動、意思決定したことの見直すための活動、ある一定期間実行後に振り返り・まとめるための活動、さらなる活動へ発展させるための指導、そのことによる成果などが実感できるようにするための活動などについて記述する。	

7 板書計画等（写真も可・項目だけでなく、実際に板書することを書く・ICT 機器の活用について）